



まいた

がんばったね

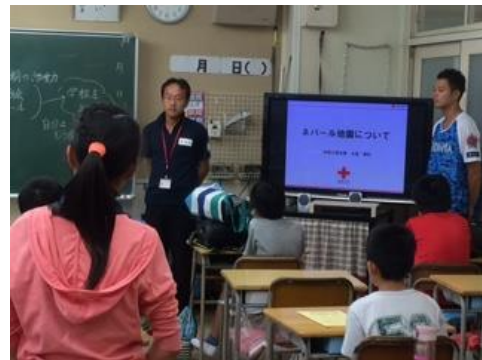
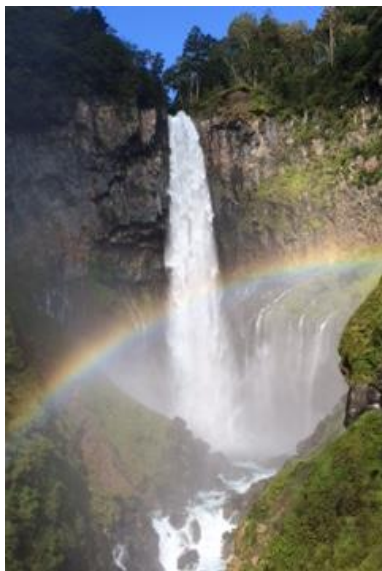
校長 保科 泉

日光修学旅行一日目、雲行きも天気予報も芳しくなかったので、雨用のプログラムで出発しました。一面霧の中のいろは坂を走るバスの中で、こんな声がありました。

「不思議な感じ。」「日本じゃないみたい。」「これはこれで、いいね。」

蒔田小の誇れるところ、六年生の底力はこれです。見たこと感じたことを素直に言葉に表現すること、それもポジティブな感じ方表し方をするところ。同様のことはこの二日間に数々ありました。雨用プログラムを(残念なものではなく)楽しいものに変え、自然と出てくる子供たちの感情表現に、こちら心地よくなりながらバスに揺られ、一路奥日光へ。

翌日は一転しての快晴。朝一番の華厳の滝には、大きくくつきりとした虹がかかっていました。ほんの数分の出来事でした。奇跡的なプレゼントを見た子供たちはさすがに一瞬言葉も出ませんでした。



徳川家康生誕四百年記念の東照宮は「平成の大修理」でいたるところが工事中でした。が、壮大な歴史を物語る建造物とそれを取り巻く自然の中を歩き回り、「すごい。」の連発でした。(さすがに疲れは隠せませんでした。)

解散式の蒔田の森でも「楽しかったあ。」の晴れやかな声を残して、今年の修学旅行は終わりました。この「楽しかったあ」は六年間に学んできたいろいろなことが含まれた声に聞こえませんでした。様々なところで六年生らしさを発揮した充実の一泊二日でした。

九月八日には日本赤十字社神奈川県支部のネパール地震救援活動に従事された方に来ていただき、児童会の議事運営委員会と人権委員会共同で被災の状況などのお話を聞きました。壁が丸ごと崩れた学校で勉強している子供の様子などをスライドで見せていただき、七月に集めた義捐金がネパールの子供たちにどれだけ助けになるか、多少なりとも実感をもつことができました。まだまだ救援の手を差し伸べる必要があることも。

来週で前期が終了します。四月からの学習でどのような成長をどのくらいすることができたかを「あゆみ」に記してお渡しします。ご家庭でもご一緒にこの半年間の振り返りと、これからの目標づくりを話題にしていたいただくと一層励みになると思います。一年生の朝顔の観察カードに花↓しぼんで↓実になって↓種が取れた、という成長の足跡が分かりやすい図に表されていました。そして、その下にこう書いてありました。

「たね、がんばったね。さいてうれしかったよ。」
あゆみを書いた先生も、同じ気持ちです。



1-1 Aさんの観察カード